

2011年4月



← 小さな漏れを侮って ...

写真は、建設現場での少量の水漏れがいかにも速く大量にそして破滅的な漏出になったかを示している。これらはほんの数分間の違いで撮られた写真である！

この事故は、プロセス産業に携わる我々に、配管やその他の設備において検知したあらゆる漏れを報告し修復することが重要であるということを思い起こさせる。**漏れは全て、それがいかに少量であっても潜在的に危険である。**通常、毒性物質、可燃性物質、引火性物質はより高いリスクがあるが、この写真に示されているように、どのような物質の漏れであっても危険性がある。

→ ..巨大な漏れにするな! →

非常に毒性の高い物質は少量の漏れでも即危険になりうるし、引火性あるいは比較的毒性の低い物質であっても漏れが急速に増大し、重大な火災、爆発、あるいは健康障害を起こすのに十分な量になりうる。



あなたにできることは？

- 作業中に気づいた漏れは、いかなる漏れもただちに報告すること。漏れのしるしとしては、液溜まり、しずく、変色した塗料や断熱材、いつもと違う臭気などがある。そしてその漏れがタイミングよく適切な方法で修復されるまで繰り返し確かめること。
- 漏れている物質を特定し、漏れが修復されるまでは安全を確保するためにプラントの手順に従うこと。そのいくつかの例：漏れている物質を閉じ込めるかまたは吸収すること。それを安全な場所に排出すること。人々に危険を知らせ遠ざけるために警告標識やバリケードを設けること。もし漏れている物質が引火性あるいは可燃性ならば、着火源がないことを確かめること。プラントの緊急事態や漏洩対応の手順には、プラント内の物質に応じた特有の処置方法が含まれているはずである。
- 漏れを修復するための補修には、プラントで準備するための時間が必要なことを認識すること。一配管や容器は空にする、装置の運転を止める、装置を作業区域から隔離する、などのことをしなければならないかもしれない。一修復がなされるまでは安全な場所から漏れを監視し、漏れが増大する場合に適切な処置がとれるようにすること。
- 通常は隠れて見えない(例えば断熱材で覆われている)装置を監視あるいは点検するときは、漏れの形跡を探し、修復作業を可能とするための観察所見を報告すること。

“小さな”漏れというような漏れは存在しない！